



庚申さんは大和の国の庚申信仰の総道場、小泉の町の人達が大切に守ってきたお寺です。門前町の「くくり猿」は庚申さんのシンボル、お猿は人間の欲を諫めるために、軒先に吊られているのです。

庚申信仰では、六十日に一度の庚申の日に、眠っている間に身体から三尸（さんし）の虫が抜け出して、天帝にその人の悪事を告げ命を縮めてしまうとか、だからその夜は眠らずに、酒を酌み交わし、楽しく語り明かすのです。

これは中国の道教が起源の古い教えで、やっぱり楽しく笑って生きることが健康の元ということなんでしょうか。

（小泉 庚申堂 2002）